

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディア

韓国三・一運動はどう報道されたか

浅野健一

私は一九九七年八月末、韓国の天安にある柳寛順記念館を訪れた。韓国のジャンヌダルクと呼ばれる柳寛順さんはソウルの梨花学堂に通う十六歳の学生の時にソウルで「三・一運動」を目撃した。日帝の総督府は学校を休校にしたため、彼女は故郷で独立運動を企画、旧曆に三月一日に当たる四月一日に並川広場で開かれた集会で独立万歳を叫んだ。群衆と日帝当局者が衝突、彼女は逮捕された。当局の拷問に屈せず二十年十月十二日獄死した。十八歳に満たない短い生涯だった。最期の言葉は「日本は必ず滅びる」だったという。

柳寛順さんの墓地には、彼女の生前の言葉が刻み込まれている。韓国の人々は彼女の偉大な闘いを原点にしている。彼女の墓の前で私は考えた。彼女を拷問で殺した日本人の側が彼女の遺志をどれだけ真剣に受け止めているだろうかと自分に問い掛けた。彼女の言葉通り、日本は一九四五年八月十五日に破滅した。しか

し、日帝がアジアの人民の抵抗、非暴力の抗日闘争で崩壊したという認識は今の日本にあまりない。むしろアジア侵略を美化し、日帝時代へ回帰しようという動きが公然化している。

一九一九年三月一日に朝鮮民衆の独立を求める抵抗運動「三・一運動」が起き、二〇〇万人以上が参加し、日本帝国主義（日帝）の植民地支配の不当性を世界に訴えた。当局の弾圧で七五〇九人が殺害され、一万五九六一人が負傷、五万二七七〇人が検挙された。三・一運動は、インドのガンジーらアジア・アフリカの非暴力主義抵抗運動に大きな影響を与えた。

この非暴力運動を受け、銃剣での統治に限界があると悟った朝鮮総督府は文化政策の変更を余儀なくされた。寺内総督による「武断統治」から齋藤総督「文化政治」への変更である。これにより、日帝は二〇年に「民族紙」としてハンゲルでの新聞発行を許可した。「朝鮮日報」と「東亜日報」が創刊された。「お前たち

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディア三・一運動はどう報道されたか

の新聞だよ」と朝鮮民族の資本として初めて発行を許したのだ。

しかし両紙は四〇年と三六年に強制廢刊に追い込まれていく。

当時の日本人は、天皇を神と考え、アジアの中で最も優秀な民族だという誤った精神にマインドコントロールされていた。マスメディアも同じだった。

韓国では三・一運動の八〇周年に当たる九九年に「三・一独立運動記念塔」を完成させるための準備が進んでいる。九八年三月一日には起工式が行われた。私は二月下旬にソウルで開かれた「三・一独立運動記念塔建立推進委員会」主催の国際シンポジウム「韓国における三・一運動と非暴力運動」の発表者の一人となった日本から引削達東京大学名誉教授（前フェリス女学院大学学長）、笹川勝紀国際基督教大学教授も参加した。私は日本の新聞社が三・一運動をどう報じたかを東京日日新聞・東京朝日新聞・萬朝報を縮刷版とマイクロフィルムで検証した。

1 東京日日新聞（現・毎日新聞社の前身）

東京日日新聞は当時、最も影響力のあった新聞とされている。

三・一運動についての記事は一九一九年（大正八年）三月三日付に初めて現れている。「朝鮮京城の不穏」という二段見出しで、国内一般ニュース面の中央に載った。他に、「仙台市大火」、「お茶の水高女の志願者は募集数の十九倍」などの記事がある。

この第一報は二つの記事が一緒に載っている。まず「三月一日発特電」として、「群衆大漢門に集り 隊伍を組んで市中を練る

憲兵隊ら鎮撫に努む」という脇見出しで、《李太王殿下国葬儀のために朝鮮各地から多数の鮮人が京城に来たことを機に、各種の流言蜚語を放ち人心を蠱惑せんとする者によつて形勢不穏になり、一日午後二時頃京城における中等学校以上の鮮人学生の一部が結束し隊を組んで正午から市中を練り歩いた》、「女子学生も」

「群衆と共に」という小見出しが続いている。

次に「三月二日発京城特電」として「昨日も尚騒ぐ 扇動者は天道教を称する一派」という見出しで次のように書いた。《天道教祖を自称する孫秉熙らは二日も正午から大漢門に集合し、また不穏の言辞を弄し、数千の群衆がこれに和し示威運動の行動をして憲兵その他に鎮撫された》

三月一日発の原稿は二日付の紙面には掲載されなかった。保留扱いとなっていたようだ。

三月四日付では七面に「朝鮮騒擾の首魁 孫秉熙捕縛さる 抜剣の憲兵と軍隊で鎮圧す」（三日京城特電）という見出しで続報が出た。「百六十名検査さる」「愚民を惑す天道教」「平壤其他各地響應す」「首魁の孫」を逮捕したが、学生・労働者の群衆が市外を練り歩いている際、歩兵一個中隊が銃剣を突きつけ、憲兵は抜剣して鎮圧したなどと報道。天道教信徒を愚民と決めつけている。

同じ三月四日付の三面には「日鮮の融合 日鮮両民は同祖同族なり 日鮮融合は民族自決主義の命ずる處なり」と題した長文の社説が載っている。「朝鮮と日本とは太古以来離るべからざる親

朝鮮騒擾の首謀者が 大漢門外に捕はれし刹那

(一昨日の撮影……昨日の参照)



不逞の暴徒と決め付けた日帝メディア三・一運動はどう報道されたか

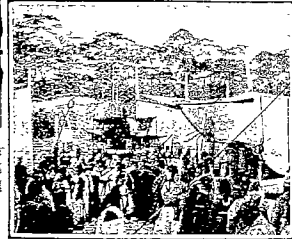
1919年3月5日付の東京日日新聞

関係にあり「今日の日鮮関係は、単に歴史的趨勢伝説的關係の自然に復したるものというべきのみならず、世界に最大の力を示せる民族自決主義を發揮」するものであると主張。「鮮人の日人を宗主として結合」と、「日本人の鮮人への友愛」を強調する。

三月五日付には記事はなく、三段で「大漢門外に捕はれし刹那朝鮮騒擾の首謀者が（一日午後撮影昨日参照）」という説明付きの写真が掲載されている。警官が学生と思われる若者の背中をつかんで連行しているシーンだ。

三・一運動に関する第三報は三月六日付の「京城の騒擾再発す女学生多数の参加 扇動の嫌疑者三名」。女子学生や看護婦が多数参加して警官に拘引された経緯を伝えた。最後に「某国人（多分宣教師ならん）」の三人が扇動の嫌疑で警察に同行されたと書いてい

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディアア三・一運動はとう報道されたか



李王殿下に 上書を企つ

近藤の勸告を要す
犯人に直に逮捕を
檄文を押収す

開城の女學生騒ぐ

三月九日開城に於て
百六名を檢束す

暴徒の死傷百

被害者も亦六十餘
擧げてゐる

いはれなき騒擾

誤解を起したる
日帝の報に對する
朝鮮人の憤慨

背後に某國の宣教師

「日本の報に對する
宣教師の論議」

悲む可し

朝鮮の當に
報章の害に

三島彌太郎子

一書に對して
不始末を起す

不如蹄の大公主

不始末を起す

研究会の大恩人

研究会の大恩人



宣教師某國に對する三島子爵

在京鮮人を啖す

安世桓逃亡す
安世桓の死

次の總裁

總裁の候補

る。

三月八日付では「いはれなき騒擾 誤解された民族自決 軽率妄動する者は厳罰せん 国分司法長官の談」という見出しで、「今回の騒擾は民族自決を誤解もしくは曲解したもの」「真に民族自決が行われるとすれば、米國は国内のアメリカインディアンを独立させ、ハワイ、フィリピンを自治を許し、英國は膨大な版圖の全てを放棄しなくてはならない」と牽強附会の論理を持ち出している。

また「背後に某國の宣教師 実弾は憲兵のみが自衛の目的で発射 暴動漸次鎮靜」という見出しで、陸軍省某高官は語る「日本軍隊が実弾を発射したと伝えられたが、それは誤りで若干の憲兵が自衛の目的で発射したものである」。軍隊であろうと憲兵であろうと「誰が発砲したのか」という抑圧した側の論理を語っている。「暴動の背後に某國宣教師がいる」という根拠を示さない推測もある。

三月九日付は「朝鮮各地の暴徒頻りに警察を襲ふ 我が警官隊に負傷者を出す 京城は流言蜚語益々盛なり 総督府発表の公報」という見出し。巡查一名 巡查補二名 憲兵補充員一名が負傷したと報道。暴徒は蹴倒されて後に死亡しているが、邦人負傷の方が朝鮮人の死亡よりもニュース価値があると見てい

る。この記事に並んで、「暴徒尚諸道に蜂起す」との見出しで各地の「暴民蜂起」を伝えた。

三月一〇日付は「朝鮮で検挙の暴徒 四千名に達す 各地の騒擾やまず 随所に死傷を出す 京城電車の現業員罷業」。

三月一二日付の見出しは「米領事抗議す 騒擾事件に関係あり」として京城青年館の家宅捜索―警務総監部は峻拒す」。今回の騒擾に関して中央青年会館の家宅捜索を警務総監部が行い、京城駐在の米國領事は「宗教と政治は別個なり、宗教に対しては干渉を許さず」と外事課長に抗議を申し込んだと伝えた。外事課長は警務総監部に伝えたが、同総監部はかくのごとき抗議は受付くべきものにあらずと峻拒した、と報じた。

三月一三日付は「朝鮮の騒擾地ついに八十五ヶ所に及ぶ」という見出しで、各地でストライキが発生していると伝えた。三月一六日付は「朝鮮騒擾犯人約五百名 内婦人五十名」という見出しで、警務総監部が取り調べを終えて起訴すると報道。「鮮民ようやく非を悟る 京城其他も漸次開店す」という記事もある。

三月一七日付は「東京の鮮人中學生 百八十名同盟退学」という見出しで、東京などの朝鮮人學生が次々と「帰鮮」していると書いた。三月二一日付は「大阪の鮮人陰謀団 密議中に捕はる」という見出しで、天王寺公園の「暗き木陰にて円陣を作り密議を凝らし居た二十余名の鮮人」が警戒中の刑事に引き捕えられ、「不穩の文字を並べたる宣言書のごときもの多数を所持し」ていたことから、「大阪在住の三千の鮮人を扇動し、朝鮮と呼応して

不穩の拳に出でんとするところを取り押さえられたるなり」と報じた。

その後も各地で死者が出たという記事が載っている。

三月二七日付は「日本を呪ふ某國宣教師 シベリア帰來の某將軍語る 日本を精神的に崩壊すと揚言 手先になれる鮮人共」という見出し。某將軍が某國宣教師のことを語っているが、これほど情報源も定かでないものが新聞記事になっている。

四月一〇日付は「朝鮮に騒擾取締令 台灣の土匪討伐令に類似 目下總督府にて立案中」

四月一一日付は「良民の苦惱を救はん 徹底的に暴民一掃の決心 軍隊増派も畢竟これが為め―陸軍省某当局の談」という見出し。他國に軍隊を派遣する常套の理由説明が使われている。その國の良民を他國が一概には判断できないのではないが。

四月一二日付には「不逞鮮人畏怖す」「良鮮民はヤット安心」という見出しが立っている。

四月一三日付の「朝鮮學生刑事に殺らる 西狩田署長を告訴せん」という見出しの記事は、日本にいる（在京鮮人）明大生崔在宇が友人の慶応生下照瑤、外語生崔承萬と神田北神保町郵便局前で鼻紙を捨てたら、西神田署の尾行刑事三名が咎めて口論の末一名の刑事がやにわに崔の顔面を殴打した。三學生は同署の署長に面談を求めたが取り上げられず、同署を相手取り近く訴訟を提起しようとしたという内容。警官が微罪で殴ったことも大問題だが、朝鮮人學生に尾行刑事がいたことの方が怖い。

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディア三・一運動はどう報道されたか

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディア三・一運動はどう報道されたか

独立運動であることは一切触れていない。五月一八日に初めて朝鮮独立運動という言葉が見出しに登場した。三・一運動は今の新聞でいう社会面で紹介されているのがほとんど。これは朝鮮は日本の一部で、国内の事件として扱っている。ほとんどの記事が治安当局の発表のまま書かれている。

2 東京朝日新聞(一九一九年)

東京朝日新聞(現在の朝日新聞)も第一報は三月三日付だ。五面の中央に「不逞な激文配布 国葬を控えた京城で 警務総監部の大活動 二日京城特派員発」という二段見出しで、「国葬を前に控たる京城は各地よりの入京者多く雄踏を極めつつありたるが、一日朝南大門駅前に朝鮮文にて認めたる激文を貼り出し鮮人あり」などと報じた。続いて「朝鮮総督 諭告を發す 国葬に際し、騷擾を慮る」という見出しのベタ記事で、長谷川総督の官報号外の戒告を載せている。

三月四日は二段で、「鮮人の運動 平壤にては一萬人の群衆警官隊と衝突し数名の死傷者を出す」という三日発の特派員電。並んで「京城の大行列 手に手に舊国旗を懸して 男学生に女学生も参加す 市街は店を閉じ警戒」という二段記事と「首謀者三十二名引致 女学生二名あり 三日は頗る平穩」というベタ記事がある。ここで初めて朝鮮民衆の運動があったことが分かる。五面のトップは「李太王殿下の国葬 拝観者五十万人」という写真入り記事だった。

朝鮮京城の不穩

◆ 群衆大漢門に集り 隊伍を組んで市中を巡る 憲兵専ら鎮撫に努む

本報特派員京城の朝鮮京城の不穩は、昨日(三日)より甚だしくなり、市中に集り、隊伍を組んで市中を巡る。憲兵専ら鎮撫に努む。昨日(三日)の京城特派員電に、京城の不穩は、昨日(三日)より甚だしくなり、市中に集り、隊伍を組んで市中を巡る。憲兵専ら鎮撫に努む。昨日(三日)の京城特派員電に、京城の不穩は、昨日(三日)より甚だしくなり、市中に集り、隊伍を組んで市中を巡る。憲兵専ら鎮撫に努む。

昨日も 尚騒々

昨日(三日)も、京城の不穩は、昨日(三日)より甚だしくなり、市中に集り、隊伍を組んで市中を巡る。憲兵専ら鎮撫に努む。昨日(三日)の京城特派員電に、京城の不穩は、昨日(三日)より甚だしくなり、市中に集り、隊伍を組んで市中を巡る。憲兵専ら鎮撫に努む。

▲ 總督告諭を發す

昨日(三日)の京城特派員電に、京城の不穩は、昨日(三日)より甚だしくなり、市中に集り、隊伍を組んで市中を巡る。憲兵専ら鎮撫に努む。昨日(三日)の京城特派員電に、京城の不穩は、昨日(三日)より甚だしくなり、市中に集り、隊伍を組んで市中を巡る。憲兵専ら鎮撫に努む。

昨日(三日)の京城特派員電に、京城の不穩は、昨日(三日)より甚だしくなり、市中に集り、隊伍を組んで市中を巡る。憲兵専ら鎮撫に努む。昨日(三日)の京城特派員電に、京城の不穩は、昨日(三日)より甚だしくなり、市中に集り、隊伍を組んで市中を巡る。憲兵専ら鎮撫に努む。

三月七日付は「朝鮮各地の暴動 一旦鎮静の姿なりしも再び勃発、警官隊」という三段見出し。六日京城特派員発で、「徳壽宮前の大群衆」「警戒の憲兵隊」という写真説明付きの写真が二枚載っている。続いて「米人の看護婦 檄文を配布して回る 大群衆返戻行列に加わり徳壽宮に到る」という二段記事。「学生の検挙子百名 電車乗務員にも参加強要」「平壤方面の大警戒」「讚美歌を唄う女学生団 校長に説諭す」「少年隊を先頭に示威」「沙川、成川に蜂起 駐在所や派遣所の焼打 憲兵惨殺され警官捕虜」「囚人脱監を企つ」「総督再度の告諭 流言に惑わず速やかに覚醒せよ」などの記事が五面の約八〇%を占めた。

ところが三月八日付では「暴動の中を通過 巡查憲兵の留守を狙う 東京の電車騒擾より小い 古賀拓殖局長談」という記事で、局長が語った「子供のいたずら位のものだ、何しろ武器もなければ大した尻押しもないのだから大したことはない」などという一方的見解を長々と載せている。続いて「迷信から一部の徒が利用扇動す 加藤副官実見談」という見出しで、葬儀に参加していた秋山大将一行中の副官が大阪で、「国王の死に際しては何事かの変事が起こる」と語ったと報じた。この日から、三・一運動の動きに関するストレート・ニュースが激減、日本当局者説が増える。

三月九日も五面左下で「朝鮮騒擾やまず 既に四千名検挙さる 天道教主数百万円徴収」という二段記事で報じた。朝鮮貴族たちの感想として、孫秉熙教主は「信徒を欺き、自己は豪奢なる生

活をなし、今日に至るまで何等独立運動を起こさず、されば地方の信徒より迫られ答弁に窮して」いたが、国葬のために地方から多数の信徒が上京するこの機において、「一芝居をなさざれば地方信徒が離散するのみならず一身に危害が及ばん恐れあるよりかかる事件を惹起した」と述べている。まるでカルト集団による騒動のような扱いだ。

三月一〇日、一日付では各地で同盟罷業が広がり、女学生が大韓国旗を掲げて示威運動を展開したことが報じられた。

三月一二日付は「どういふ訳で騒ぐかと騒擾を御心配 国葬を終らせ給いて李王世子本日御帰京」という記事と、各地の暴動の記事が上下に離れて載っている。この後、各地で暴動が続いたという記事が連日報じられたが、一八日に「騒擾依然 各地に続発」という記事が出て、四月一日に「暴徒三千郵便局を破壊す」の報道があるまで途絶える。

四月五日付の三面の社説は「植民地統治の革新」と題して、朝鮮騒擾について、我が総督政治の欠陥が一因と指摘し、武断的高圧政策の転換を求めた。

「朝鮮に兵力増派 陸軍省発表」(四月九日)、「朝鮮総督諭告」(四月一〇日)、「騒擾せぬと誓約す 朝鮮の農民」(四月一二日)、「京城の学校大搜索 警官三百三手に分かれ 騒擾の証拠書類を押収」(四月一五日)、「内地に入り込んでいる危険人物の行動 未だ運動は始めないが金で労働者を釣る策略 十二分に警戒に努めていると某当局者は語る」(四月一七日)、「朝鮮暴動真相

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディア三・一運動はどう報道されたか

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディアア三・一運動はどう報道されたか

不逞鮮人畏怖す

軍隊増派の報を聴きて
政府の決心を意外にす
長鮮民はヤツト安心

朝鮮の鮮人の畏怖するに、軍隊増派の報を聴きて、政府の決心を意外にす。長鮮民はヤツト安心。朝鮮の鮮人は、政府の決心を意外にす。長鮮民はヤツト安心。朝鮮の鮮人は、政府の決心を意外にす。長鮮民はヤツト安心。

秘密續出—宣教師宅から

潜伏中の鮮人犯人や
秘密出版物を發見す
大學生の
同女學校

潜伏中の鮮人犯人や、秘密出版物を發見す。大學生の、同女學校。潜伏中の鮮人犯人や、秘密出版物を發見す。大學生の、同女學校。

同女學校、潜伏中の鮮人犯人や、秘密出版物を發見す。大學生の、同女學校。

同女學校、潜伏中の鮮人犯人や、秘密出版物を發見す。大學生の、同女學校。

同女學校、潜伏中の鮮人犯人や、秘密出版物を發見す。大學生の、同女學校。

1919年4月12日付の東京日日新聞

1919年4月12日付の東京日日新聞

長谷川總督 三度諭告

軍隊増派の止む
なき所以を告ぐ
長谷川總督、三度諭告。軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。

軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。

軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。

軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。

軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。

軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。

軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。軍隊増派の止むなき所以を告ぐ。長谷川總督、三度諭告。

守屋氏視察談（四月一八日）「暴徒首魁 北満で捕縛 京城へ護送」（四月一九日）。

四月三〇日付は三面の「日本と列国」という欄で、二五日バリ鈴木特派員発の「朝鮮人の秘密本部 特派員に発見されて遁走す」という見出し記事を載せている。「余は苦心慘憺の末、パリにおいて朝鮮〇〇の扇動運動なしつある首領金某某他鮮人の巢窟を突き止め得たり」という書き出しで、「支那人と同宿する」「首魁金」なる人物と会ったと書いている。

東京日日に比べると三月七日以降、朝鮮の動きを詳しく伝えた。当局発表に依存した報道だが、ファクトをつなぎ合わせる。再び四月一日から記事が現われ始める。当局者の「談」という記事が多い。

独立運動という言葉は全く使われず、朝鮮騒擾・朝鮮事変という言葉が使われている。「朝鮮〇〇の宣伝運動」（四月三〇日付）と、白抜きになった箇所があり、日本当局の検閲のあとが何える。

3 萬朝報（一九一九年）

第一報は「不穩な檄文を配布」としながらも、檄文の内容には全く触れずじま이었다。黒岩涙香が一九九三年に創刊した新聞で、文芸欄に力を入れ、

● 鮮民覺めよ 國法嚴として存す

● 頑冥の徒は容赦なく處刑す。
● 總督府國分司法部長談

● 逐段事件
● 諷刺を奏上
● 日英の鮮民

● 聯合關係
● 漸次鎮靜
● 他派の徒が

● 朝鮮の現状
● 朝鮮の政治
● 朝鮮の教育
● 朝鮮の宗教
● 朝鮮の産業
● 朝鮮の交通

社会主義・労働運動にも理解を示した新聞。

萬朝報は三月四日付夕刊で初めて報じた。夕刊一面の左上のベタ記事で、見出しは「朝鮮流言蜚語」で本文は一一行。「朝鮮に流言蜚語盛んに行われつつあるは戒むべし、か

く、民を帰服せしむるには慈愛をもつてすべし、多数の朝鮮民は我施政に謳歌しつつあり、ことを誤るは軍人政治なり。」
流言蜚語が盛んに行われているというだけで、朝鮮人民が実際に独立運動を展開したことは全く伝えていない。

のごときは徒に新聞記事の掲載を禁止し、あるいは無益なる制限のために疑心暗鬼を生ぜしむる結果にして、日本の施政が朝鮮民に幸福を与えつつある以上何を恐れ何を憚るところあらん、暴拳は威力によりて鎮圧すべ

三月七日付の夕刊は「京城学生騒動」という見出しで、一面の上段左側にベタ記事で報じた。京城の学生たちが、女学生と共に再度の騒動を起こしたと伝えた。「再度」というが、この記事の前には前述の「流言蜚語」の報道しかない。また記事は、総督府の吏員が騒動を予知できなかったことを批判、「朝鮮語を学び、朝鮮人の生活に接近するほどの施政あるを要す、軍人政治は徒に威圧をこととし、みだりに其の自由を拘束す、これかくのごとき反感を生ぜしむる所以なり」と述べて、当局者の反省を促している。最後に、「過激派」の關係の有無に注意を喚起している。

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディア三・一運動はどう報道されたか

三月八日付夕刊二面は「朝鮮大騒擾(公報)——一日より四日に亘って 信徒三百万を有する天道教を中心とする集団各地を騒がす」という二段見出しで、三月一日から三日までに、京城、平壤など各地で、独立万歳を叫んだ示威行動があったことを伝えた。すべて朝鮮総督府の発表に基づいた記事。同日夕刊三面は上段の二段記事で「鮮民覺めよ 国法嚴として存す 頑冥の徒は容赦なく処罰する 總督府國分司法部長談」 「朝鮮において頑冥不逞の徒、皇恩のありがたきを思わず、流言蜚語に惑わされて連日蠢動したるは夕刊所載公報の如し」というリードで、司法部長官が、「今回の騒擾は講話会議における民族自決主義の語を曲解し

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディアア三・一運動はどう報道されたか

た一部不逞の徒に扇動せられ、朝鮮もまたこの適用を受けるだろうと誤信した結果で誠に事理を解せざるもはなはだしい、国法は赦として存す、いやしくも軽挙妄動するものはその男女を問わず厳重に処分せらる、今日朝鮮における監獄の設備はこれらの徒輩を收容して厳罰を加えるに十分である」とコメント。さらに今回の事件が普通の事件と趣意を異にし社会国家に多大な害毒を流すもので、「絶対に根絶する必要がある」ために裁判所は手厳しく処罰する所存だと述べている。

三月一〇日付三面は、「南鮮方面も騒ぐ」という見出しの二段記事。三月一四日付朝刊二面は「朝鮮暴動問答」という見出しのベタ記事で、衆議院での質疑応答を報道。同日夕刊は二面で「騒擾地は一三道八四カ所」という見出しのベタ記事が掲載されている。

朝鮮各地、大阪などで朝鮮人が検挙されたことや同盟罷業、商店閉店などについての記事が載っている。

三月二七日付は「本日八頁」とうたった紙面のトップ記事で、「言論」と銘打って「朝鮮の施政」と題する社説を掲げた。社説はまず、朝鮮の暴動が諸外国の新聞で大々的に報じられ、無垢の市民約一万人が拘束されているという報道もあり、当局は速やかに暴動の真相を明らかにすべきだと主張。「朝鮮が日本の支配に帰して以来十三年、その間朝鮮人は甚だしき自由を樂しむにいたった」と指摘したうえで、外国紙は「総督府の軍人政治はしいて日本に対する忠誠心を養成せんとし、かえって反対の結果を招き

つつある」と報じていることを紹介した。続いて、総督府は朝鮮人に経済上の利益と希望を与えるべきだったし、「要するに朝鮮の総督政治は朝鮮人への同情が薄かったのである。この点は我政府は大いに反省しなければならぬことである」と断じた。さらに「朝鮮民族は頗る鋭敏なる感受性を有する」と述べて、「軍人政治は圧伏主義に陥りやすく、いまのデモクラシーの世の中においては、いかなる国民に対しても軍人政治は行われぬのである。我が総督政治は大いなる施政的錯誤に陥つたのである」と論じ、日本が非デモクラシー国として排斥されないために、総督政治の大転換を求めた。

四月二日付に、「朝鮮統治新方針」というベタ記事。

四月五日に再び「朝鮮善後策如何」と題して社説を掲載。「朝鮮の騒動は純然たる内政問題であつて何れの国もこれに関係すべきではない」ので人種差別撤廃問題ではないと述べた。朝鮮の暴動が発生以来一ヶ月たつても鎮静しない事態を憂慮し、拘束されている一般の朝鮮人の解放、朝鮮人の高級吏員への登用などの施策を提言。朝鮮のために日本が多大の犠牲を払つており、朝鮮の独立は絶対に認められないと強調したうえで、「朝鮮人は我が邦より古い文明を有する、我が国の統治下に置かるるに至つたのは、彼等の政治的墮落がついに自治の能力を失つたがためであつて、彼等が劣等人視背らるべきものでもなく、また土人の待遇を受くべきものでもない、彼等を故意に従順ならしむることはほとんど不可能である」と主張。誘導開発して次第に自治を与えるべ

きだと訴え、「朝鮮人をして安んじて我が治下にあることを得せしめねばならぬ」と結んでいる。

三月四日の夕刊で「朝鮮流言蜚語」とあるが、この報道では独立運動の発生だとは全く分らない。三月八日に初めて大きく掲載されるが、一日から四日にかけてのことを総督府の発表をそのまま載せている。当局の検閲があつた可能性もある。

外国メディアの朝鮮論は日本に賛成している所だけ載せていて、非難する記事を書いている所に対しては、政府は異議を唱えるべきだと書いている。

夕刊などの「言論」で、朝鮮独立運動と講話会議を取り上げている。総督府の抑圧的統治方法を非難しているが、総督府の存在自体は否定していない。朝鮮でどういう政策を行えば、円滑な統治が可能かについて、「総督府の統治下で、次第に自治を認める」という立場を鮮明にしている。事件に対しては総督府の軍人政治に問題があり、文人政治にするべきだという見解だ。

萬朝報は鮮人などの差別的用語をほとんど使っておらず、朝鮮民族に対して同情的な記述も少なくない。当時のリベラルな日本人を代表しているのかもしれないが、日本の植民地支配には疑問視する姿勢は全くない。したがってより巧妙な統治を提言した結果に終わっていると見えよう。

4 日帝の言論支配

私は九七年一〇月に『天皇の記者たち』（スリーエーネットワ

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディア三・一運動はどう報道されたか

ーク）を出版した。「大新聞・通信社によるアジア侵略」研究をまとめた本である。九五年一〇月、「日帝支配下の韓国の言論」の章を書くためにソウルで現地調査した。韓国の新聞学の権威、李相福（イサム）ソウル大学名誉教授、李鍊（イチョン）氏は、日本統治下の韓国には「言論」というものがそもそもなかったと述べた。私は日本帝國統治下の韓国における言論の歴史を振り返り、日帝当局が韓国のジャーナリストをいかに弾圧したかを論じた。また日帝時代に記者をしていた韓国人ジャーナリストへのインタビュー、三六年八月九日ベルリン五輪・マラソンで金メダルをとり、「東亜日報」「朝鮮中央日報」日章旗採消事件のきっかけをつくった孫基禎（ソンキジン）手前から聞き取り調査をした。三・一運動をきっかけにして誕生した二つの民族紙、「東亜日報」「朝鮮日報」（共に二〇年創刊）が強制廃刊に至る過程も検証した。

韓国には高麗時代から多くの新聞があつたが、一九〇四年ごろから日本の憲兵が記事、写真を検閲し始めた。一九〇五年に日韓保護条約によって統監府が設置され、初代統監に伊藤博文が就任。一九〇六年「京城日報」が伊藤によって創刊された。民族派の新聞は、一九一〇年八月の日韓併合で日本勢力によってつぶされ、同年九月に朝鮮総督府が設立される。憲兵警察による「武断統治」を行った初代朝鮮総督の寺内正毅は、朝鮮人による新聞を廃刊または買収。「大韓毎日申報」を買収した際、紙名より大韓を削除して総督府機関紙「毎日申報」（漢字混じりのハンゲル表記、三八年四月に「毎日新報」と改名）とした。朝鮮総督府の機

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディア三・一運動はどう報道されたか

関紙である日本語の「京城日報」と英語の「ソウル・プレス」(The Seoul Press) 二七年五月自主廃刊」が出た。この三紙だけしか認めず、新しい朝鮮語新聞の発行を一切禁止した。

「毎日申報」は「京城日報」のハンゲル版とも言え、総責任者の徳富蘇峰は一〇年一〇月、毎日申報社員に「毎日申報の新聞紙として存在する理由は我が天皇陛下に至仁至愛日鮮人一視同仁の思召を奉戴し之を朝鮮人に宣伝するにあり」などと訓示している。

「三・一運動」で、銃剣での統治に限界があると悟った朝鮮総督府の文化政策の変更、寺内総督による「武断統治」から齊藤総督「文化政治」への変更により、二〇年に「民族紙」としてハンゲルでの新聞発行を許可。「朝鮮日報」と「東亞日報」が創刊された。朝鮮民族の資本として初めて発行が許された。総督府は巧妙に言論を使って統制する道を選んだ。三一年の満州事変のころから植民地政策を支持する方向へ導くために両紙を利用。中日戦争勃発の記事は両紙とも一面トップだった。皇軍の戦果を大きく報道するなど総督府を露骨に支持する紙面を続けた。

民族紙が強制廃刊となった後は「京城日報」の独占状態となり、それは四五年一一月一日廃刊まで続いた。「京城日報」の最後の社長は四四年に熊本県知事から就任した横溝光暉だった。日本の初代内閣情報部長で国民精神総動員運動の発案者。天皇の降伏放送により、京城新聞社内の朝鮮人従業員も社内で蜂起し、まづ編集室内で「日本人出る」と迫り、他の部門でも同様の状態が

続き、結局、「建国準備委員会の指令に基づき、京城日報社を管理することになったから事務を引き継いでもらいたい」と要求した。横溝は拒否したが、八月一六日の一晩、新聞社は乗っ取られた形になり、一七日付の新聞は発行できなかった。

5 日本民族のアジア蔑視思想は克服できたか

日帝が韓国で発行していた新聞が三・一運動をどう報じたかは確認するために、ソウルの言論研究で毎日申報の縮刷版をチェックした。三月二日付で長谷川総監の「論告」を掲載。同七日付は一面トップにより詳しい「論告」を載せ、各地で騒擾事件が発生したことを三面で報じた。さらに八日には、これらの動きを「到底一無益のこと」と断じた「其名士説」を掲載した。このように三紙の報道と変わらない内容だった。

これまでに日本を代表する三紙の「三・一運動」報道を見てきたが、三紙とも独立を求めた大衆的な決起を、「朝鮮騒擾」や「朝鮮騒動」と見なし、朝鮮人民を愚民、暴徒と決め付けた。私は縮刷版やマイクロフィルムでこれらの記事を読んでいるうちに、当時の日本人の精神構造が全く非民主主義的で怖いものだと考えた。九五年に日本全体を震撼させたオウム真理教のマインドコントロールの何千倍、何万倍も怖いと感じた。

今から七九年前の新聞だが、現在の日本の新聞記者、政治家、学者の中にも当時のような思考をする人たちが存在するということも怖い。萬朝報の社説と同様に、日本の植民地支配を正当化す

る人たちが政権党やマスメディアの幹部となっている。日本軍性奴隷だった従軍慰安婦について「強制連行」はなかったとか、教科書から削れという文化人、政治家がうようよいる。そのような主張の本や漫画がミリオンセラーになっている。ソウルに向かう機中で読んだ三月二四日付の産経新聞は、藤岡信勝東大教授が自民党大阪府連で講演し、教科書から従軍慰安婦に関する記述を削除せよと主張したと伝えていた。

私は共同通信ジャカルタ支局長を務めていた九二年三月、日本の自衛隊の国連平和維持活動（PKO）参加問題についてインドネシアの各界の指導者に意見を求めた。私の尊敬するインドネシアの作家・ジャーナリストのロシハン・アンワル氏は、「日本人は侵略戦争の過去についてのカタルシスが終わっていない。日本人は他の民族より優秀だと思っている。日本人には他の民族に対するEMPATHY（感情移入、共感）が欠けている。だからあと百年日本人を信用しない」と述べて、PKO派遣に反対した。アンワル氏はスハルト大統領に近いジャーナリストだ。

シンガポール、マレーシア、フィリピンなどでは「広島・長崎の原爆はアジアの数百万人のさらなる犠牲者を救ったという面もある」という話を聞いた。本島等・元長崎市長も「米軍が投下した原爆がアジアの人民を解放したのも事実」と述べている。「国民全部に侵略戦争の責任がある」という本島氏の自宅には「そんなことを言うなら、自分の家を売って韓国に寄付しろ」などの嫌がらせの手紙が届いた。

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディア三・一運動はどう報道されたか

三・一運動はアジア・アフリカ諸国における植民地解放闘争に勇氣と希望を与えた。インドネシアでは一九二八年に青年たちが独立の誓いを発表した。三・一運動の非暴力主義は、日本を含めて帝国主義列強の心ある人民にも植民地統治の非人間性を訴えた。

民族の尊厳をかけた人民の闘いを不逞の徒と片付けていた一九一九年の日本人の精神構造が本当に克服されてきたのか、いま厳しい点検が必要である。

ソウルの中心にある韓国言論会館（プレス・センター）のホールで開かれたシンポジウムには歴史研究者のほか日帝時代を経験した高齢者も多く参加した。私はシンポジウムの二日目に発表したが、会場の反響は大きかった。発表後の休憩時間に、日帝時代を知る作家、学者らが激励してくれた。日本から持っていった新聞記事のコピーをとりたいたいという研究者もいた。

パネルデイスカッションでは、秀吉の研究で有名な黄善喜^{ホンスキヒ}・祥明大学教授が私の発表について、「日本の当時のマスメディアの論調を分析しており、貴重な研究だ」とコメントしたうえで、次のように質問した。「日本の当時の新聞はなぜ独立運動と認識しなかったのか。単なる内乱と過小評価したのか、それとも独立運動が怖かったのか」「パリで開かれた講和会議との関連が報道されていたか」「日本の当時の支配者は民族紙として生まれた東亞日報、朝鮮日報をどう評価していたのか」。

私はこう答えた。「日本の新聞には、朝鮮の支配が不当である

不逞の暴徒と決め付けた日帝メディア三・一運動はどう報道されたか

(付記)

キム・ゲジュン

という視点は全くなかった。日本が朝鮮を支配し、指導するのは当然という誤った考え方だった。従って、三・一運動をどう收拾させるか、そして運動以降の統治をよりスムーズにするにはどうするべきかという議論だった。講和会議で民族自決がうたわれたが、朝鮮半島については、日本の一部であり、適用されないという認識だった。二つの民族紙を利用して融和政策を進めていたが、日本がファシズムへ移行する中で、こうした民族紙すら認めなくなつた」。

私は四五年度の敗戦から三年後に生まれた。新憲法下で育つたが、日本のアジア侵略について十分な教育を受けなかった。アジア太平洋戦争における侵略は台湾・朝鮮への植民地支配から始まつたということが分からなかった。八九年にジャカルタで暮らして初めて日本国民としての加害者責任について真剣に考え始めた。

この国際シンポジウムには、アイルランド、インド、インドネシア、フィリピン、中国、台湾などからも参加した。韓国の一運動は朝鮮民族の自決のために、無数の市民が非暴力で立ち上がったらしい行動だった。人間の尊厳を高らかに宣言した運動だったことに強い感銘を受けた。日本に帰ると、「新しい歴史教科書をつくる会」の「文化人」たちが相変わらず跋扈していた。侵略の歴史を正視しようとしめない日本という国に、三・一の精神が根付くのはいつの日かと暗い気持ちになる。しかし一歩一歩でも進んでいきたいと思う。

韓国の金大中大統領は九八年四月二十九日、日韓政治部長交流のために訪韓中の在京政治部長訪韓団との会見で「日本は三〇数年にわたる残酷で違法不当な朝鮮半島侵略について、ドイツが行つたような明確な措置をとっていない」「日本は歴史に対する明確な清算が必要だ」と述べた。韓国政府は元日本軍性奴隷の女性に対して見舞金を支給することも決めた。日本の民間基金の受け取りは拒否されている。

日本の一部政治家や文化人は、朝鮮半島にはいいこともしたとか、従軍慰安婦は連行されていないなどという妄言を繰り返している。過去の歴史をきちんと解決せずに、今後の両国関係が重要なのだと言ってもだめだと思う。戦後生まれの人間には過去のことは無関係というのおかしい。祖父母、両親が責任を取らなかつたら、若い世代が取るしかない。

私の九八年度三回生のゼミ(新聞学)の今年の共同研究テーマは「在日コリアンとマスメディア」になった。私は弓削達氏、壽岳章子・元京都府立大学教授、山口正紀・読売新聞記者、甲山事件の無実の被告である山田悦子さんと答責会議をつくって、日本による韓国侵略の歴史をどのようにとらえ、どう責任を取っていくかを考えている。九九年には、韓国の歴史学会と協力して東京で日韓の近代史に関する国際シンポジウムを開催する。